

令和2年12月22日

文部科学大臣

萩生田 光一 様

公益社団法人 全国助産師教育協議会
会長 村上 明美

要 望 書

新型コロナウイルスの感染拡大は、全国の助産師養成機関において慣れない教育環境下でのオンライン授業の実施や、臨地での助産学実習が中止・延期される等、本年度の助産師教育に大きな影響を及ぼしています。多くの助産師養成機関は、中止・延期された授業と臨地実習を補完するオンライン授業や学内実習プログラムの実施、それに伴う設備整備や教材作成等、学生が教育上不利益を被らないよう、あらゆる努力をしております。しかし、個々の教育機関の努力だけでは限界があります。

これから一層深刻化・複雑化が予測される超少子社会において、妊娠・出産・子育て支援の専門家である助産師には、これまで以上に役割発揮が期待されており、母子や家族を身近で支える有能な助産師を育成することは急務です。

そこで本協議会は、「コロナとともに生きる社会」において、実践力を身に着けた助産師の育成に向け、感染防止対策を図りながら安定的に助産師教育を実施すべく、次のことを要望します。

1. 新卒助産師に対する卒後研修の保障を要望します。

- 地域における中核的医療機関や職能団体等に、新卒助産師に対する卒後研修センターを設置していただきたい。
- 上記研修センターに、個々の新卒助産師の能力に応じてシミュレーション教育も含めた研修内容を調整できる専従の指導助産師を配置していただきたい。

【要望理由】

助産学実習が中止・延期されることにより、学生が十分な助産技術を習得できないまま助産師養成機関を卒業することが懸念されている。次年度以降の新卒助産師が、妊産婦や新生児に安全な助産ケアを提供できる実践力を修得するには、卒後研修の保障が必須であると考えます。

2. 助産学実習時の新型コロナウイルス感染防止対策の充実・強化を要望します。

- 助産学実習で学生が使用する感染防護具を整備するための予算措置をお願いしたい。
- 助産学実習前のすべての学生に対して、PCR 検査の実施体制整備と、そのための予算措置をお願いしたい。
- 新型コロナウイルス感染症のワクチンが開発された折には、妊産婦や新生児への感染防止のため、助産学実習前に学生がワクチンを接種できるような体制整備と、そのための予算措置をお願いしたい。

【要望理由】

助産師の育成では、助産学実習は極めて重要な教育の機会となるが、分娩介助等の助産ケアを学ぶ際には、妊産婦との濃厚接触が余儀なくされる。

そのため、助産学実習のすべての場で妊産婦や新生児の安全を守ることに加え、学生自身の感染防止対策が必要である。

3. ICT を活用できる助産師教育の学習環境の整備を要望します。

- すべての助産師養成機関に加え、実習施設においてもリモート学習が可能な教育環境を整備するための予算措置をお願いしたい。

【要望理由】

今回の新型コロナウイルス感染症対応では、教育現場での遅れた ICT 環境が浮き彫りにされた。多くの助産師養成機関では ICT 導入が後手に回り、いまだ整備が不十分なところも散在し、大きな教育格差が生じている。

「コロナとともに生きる社会」において、教育の質を担保しつつ持続可能な助産師教育を進めていくには、助産師養成機関に加え、実習施設においても ICT を活用できる環境を整え、学生が現場の指導者や教員から時機を逸することなく指導を受けられる学習環境の整備が求められる。

4. 臨地実習に代わる助産実践力の担保にかかわる教育環境整備を要望します。

- すべての助産師養成機関が臨地実習に代わる教育方法・教材を整備するための予算措置をお願いしたい。

【要望理由】

今回の新型コロナウイルス感染症対応では、臨地での助産学実習が中止・延期される事態が多くの助産師養成機関で生じており、学生が十分な助産技術を習得できないまま卒業することが懸念されている。各教育機関において、妊産婦や新生児に安全な助産ケアを提供できる実践力を修得するための教育方法・教材整備が必要である。特に実践的なトレーニングが可能となるシミュレーション教育のためのシミュレーター整備をお願いしたい。